◎境界線よりこえて他人の耕地上にかぶさっている部分については直ちに伐採しましょう

今年は小坂にも開設
季節保育所大はんじょう

幼児教育に大きな役割り……通年制を望む声も

徳南公民館で農繁期保育所を開設してからことしで十年になったが、その後この施設はますますその価値をみとめられ、徳南、塚野目、大木戸、徳北と次々に各地区に普及し、ことしは小坂地区にも始められた。特にこれまでは農繁期一か月と限定されたため、例年その延期を望まれてきたがことしは遂に二か月実施に踏みきられ、親たちから喜ばれている。幼児の保育という仕事は単に手足まといになる幼児のお守というだけでなく、就学前教育という大目的があるので、できるなら全員通年保育にしたいとの声が高くなっている。

季節保育所

名称	設置責任者	幼児数	保母数	保育期間
小坂季節保育所	佐藤　ミイ	50	3	5.10～6.13
塚野目　〃	佐久間直次	15	2	5.16～7.6
徳江南部　〃	佐野　市郎	26	2	5.10～7.18
〃　北部　〃	佐藤　新七	31	3	5.16～7.23
大木戸　〃	八島福太郎	56	4	5.10～7.18

くにみ

【才105号】
昭和41年6月15日発行
非売品
発行所　国見町公民館
発行人　佐藤善次郎
編集人　鈴木美一
印刷所　宇佐美印刷所

カード式選挙人名簿
基礎調査に御協力を！

こんど公職選挙法の一部を改正する法律が公布され、選挙人名簿がカード式の永久選挙人名簿に変わることになりました。

これがため、最初に作る名簿の基礎調査として、六月二十日現在により全国一せいに選挙資格に関する基礎調査を行ないます。調査することがらは次のとおりです。

氏名
性別
世帯主との続柄
生年月日
現住所
現住所に住みはじめた年月日
本籍
前住所
現に選挙人名簿に登録されている市町村名

調査の方法
町役場職員が調査員となり受持区の各世帯を巡回し、それぞれの世帯員につき調査票に書入れて頂きます。

選挙人名簿の登録もれや重複登録がなく、いつの選挙も円滑に執行できるよう、正しい調査をしていただきたいものです。（総務課）

優良保険町に指定

県の国民健康保険団体連合会（会長石原幹市郎氏）では県保険課と合議して福島市等十一の市町村を選び昭和四十一年度優良保険者として指定しこれを発表したが、その中にわが国見町も挙げられている。これは保険税の収納率がよく（九九・八パーセント）保健施設並びにその活動がすこぶる活発で成績を挙げているというわけで、県内はもちろん県外からの視察者がまた一だんとふえることだろう。

中村住民課長談

「平素国民健康保険事業の運営につきましては、温いご理解とご協力をたまわり厚くお礼申し上げます。このたび当町が保健施設活動が良好のため昭和四十一年度における優良保険者として県連合会より指定を受けましたについては益々その責任の重大さを感じます。つきましては、この栄誉に応えるべく町民の皆さんの健康保持につき一層の精進をいたす所存でありますので今後とも特段のご協力をお願い申し上げます。」

選ぶべからず12章

「明るく正しい選挙推進機関紙」より

才一章　選挙に金をかける人
　金をふりまきやなびくと思い
　青菜に塩の手を使い
才二章　どこへでも名前を出したがる人
　そっちもこっちも名前をさげりや
　かかってくるよな魚もある
才三章　やたらに金品をかける人
　人さえ集まりや祝電・花輪
　それも政治と思ってる
才四章　ペコペコおじぎをして歩く人
　ペコペコ蛙でピョンピョンあがり
　殿さま蛙に化けるなり
才五章　親分の名でいばる人
　親の威光はばきかせてる
才六章　恩や情にからむ人
　義理とご恩と縁故と金に
才七章　後援会を作りたがる人
　つかみどころがあるようでないは
　どじょうとなまこと後援会
才八章　他人の意見でごまかす人
　みんなが好くような話をあつめ
　たたき売りして票あつめ
才九章　会議よりも二次会の好きな人
　酒もお酌も会議にや出ない
　あとの二次会がご本番
才十章　家庭の平和が保てぬ人
　家庭の平和が保てぬ故に
　政治にしようと立候補
才十一章　違反や汚職に関係した人
　忘れ時分にこれさいわいと
　汚職したのが運いあがり
才十二章　暴力を用いる人
　じみな話しや勝てぬと思い
　本性あらわしなぐりあい

明るく正しい選挙推進機関紙「私たちの広場」より

行政相談のお知らせ

いろいろの役所は、すべてわたくしたち国民へのサービスをするためにあるわけですが、「お役所しごと」といわれるように、大なり小なり、役所のやり方（行政）に対し苦情も多いことと思われます。世の中が進むにつれ、国民生活と役所との関係は、いよいよますます複雑となり、密接となってまいります。

行政監察局では、このような苦情や意見をお持ちの方から相談をうけてこれを円満に解決するため「行政相談」を実施しております。

その方法としては、町村に「行政相談委員」を設け、それぞれの町村における行政監察局の行なう行政相談業務の窓口となって皆様からのご相談に応ずる仕事をしています。

地元で、何時でも気軽に相談できる「行政相談委員」を大いに利用してください。

当町ではつぎの方が「行政相談委員」に委嘱されております。

国見町大字藤田字北四〇
佐久間　岩吉
電話　藤田　二〇三

消防団の幹部異動

このほど国見町消防団では大枝分団長鈴木与平氏の退任による佐藤英治氏の就任を始め幹部の異動が行われた。鈴木氏は永年にわたり地区の水火防や防犯活動に特段の実績を挙げ、更に後継者養成のため若い人たちの教育に尽力した功績はまことに大なるものがあり、こんど後進に道を譲るために勇退されたことは地区民みんなから惜しまれ、且つ感謝されている。

新任された幹部次のとおり

才二分団長　渡辺　富男
〃　副分団長　阿部和平次
才一部長　樋口　馨
〃　才二部長　佐藤　実
才三分団
才三部長　佐久間梅治
才四分団長　佐藤　英治
才五分団
才一部長　鈴木　清雄

学校や水道に融資

ことしの五月一日から六月三十日までの二か月にわたり郵政省の主催で「創業五十周年記念簡易保険新加入運動」が行われている。簡易保険は、大正五年に誕生してから五十年の長きにわたり、いつもわれわれの身近にあって、不時の災害の準備、老後の準備、子供の教育、結婚資金として広く親しまれてきた。途中戦争という苛酷な試錬にもめげず、ここまで続いているのはただ単にわれわれの経済生活の面に寄与しているばかりでなく、その保険料は簡保資金として積み立てられ、財政投融資の財源となって国づくりの一翼をになっているという大義名分によるものと思われる。わが町としても学校や病院を建てたり、水道をつくったり、庶民生活に特別関係のある公営住宅を建てたりする場合、いつも多大の融資をうけてきた。町村合併以後の融資額を調べてみると別表の通りで総額三六八〇万円に達している。いわば、簡易保険は個人の生活を保障しながら国づくり、町づくりに協力しているもので、国民であり、町民であるかぎり、われらの簡保という自覚をもち、赤い自転車に乗った郵便局員を迎えたいものである。

簡保積立金融資状況

年度	事業名	簡保融資額
二九	学校	一四〇万円
〃	病院診療所	二〇〇〃
三〇	病院	二〇〇〃
三一	同	一八〇〃
〃	学校	七〇〃
三二	町営住宅	一四〇〃
三三	同	一〇〇〃
〃	簡易水道	九〇〇〃
三四	同	六二〇〃
三六	病院	四〇〇〃
〃	学校	四五〇〃
四〇	町営住宅	一二〇〃
四一	同	一五〇〃
合計		三、六八〇〃

6年間における児童・生徒数変動状況表

学校名	35	36	37	38	39	40	41	6年間の減少数	左記数の減少率%
小坂小	343	333	310	269	256	228	208	135	39.6
藤田小	759	730	681	635	609	578	557	202	26.6
森江野小	413	387	340	322	294	283	255	158	38.3
大木戸小	349	343	311	296	271	238	225	124	35.5
小学校計	1.864	1.793	1.642	1.522	1.430	1.327	1.245	619	33.2
中学校計	978	1.066	1.203	1.096	1.055	959	891	312	25.9

◎立木の所有者は他人の耕作せる耕地上に常時枝葉を出さないようにしましょう

みんなで鉄道の安全を守りましょう

…〔子どもさんへ〕…

子どもと線路

○線路であそぶのはやめましょう。
○近道でも線路を通るのはやめましょう。
○レールに、石などをおくと大きな事故になるからやめましょう。
○線路の近くでたこあげなどはやめましょう。
○ふみきりではかならずとまって左右をたしかめましょう。
○ふくせんのところでは、はんたいがわの列車にもきをつけましょう。

…〔運転者さんへ〕…

これだけはぜひ

○踏切では、必らず一時停止安全確認。
○踏切警報機がチンチン鳴り出したら—踏切に入らないでください。
○踏切上で動けなくなったときは、—迷わず、列車をとめてください。
○列車をとめるため—発えん筒、赤旗を車につんでおいてください。
○複線区間の踏切警報機には、踏切支障報知装置がついていますから、押しボタンを押してください。

史跡を訪ねて

私共の史跡巡りは足どりも軽く厚樫から森江野へ年を越えて小坂へと、四月は遠く歩を進めて石那坂、五月は飯坂、そして六月は鳥取越えを探る事になった。

四月の石那坂は佐藤継信、忠信の父基治公の戦死の地、福島から上り複線才一トンネルの真上に当る。厚樫の北の因と言われるこの古戦場に立つと、驚いた事に北方遥かまつすぐになつかしの山がはつきり見えるではないか。黒岩の虚空蔵尊に詣でて西根堰の沿線を彩色模写した屏風を発見、明治中頃の作としては実に立派なものと感嘆した。古河善兵衛公が特に信仰したという。

五月の医王寺では継信、忠信、基治公の墓参をして大鳥城に登る。石垣一つない天然の険、天主閣跡に建つ吉川英治の碑文を音吐朗々と読む両大先輩、全く青年の意気を凌ぐ。

さて、六月一日は農繁と生憎の空模様で参加者は早田、三品、吉田幸平、吉田栄作、高橋外記、小野寺、志村、松浦金助各位の常連の外に案内役をお引受下さつた内谷区長熊坂源蔵様の十人、鳥取から内谷の矢木検討した結果、戊申戦当時仙台藩の監視所だろうと判断した。この頃から山霧立ち込め雲行極めて悪い、梨坦で幅広く奥洲街道から絶対に見えないという最適の馬道を見つけたものだと思う。道は、内谷東からの小型車可能の林道を、更に小原道路の記念碑附近から頭だけ見える厚樫へと直線で東に結んでいる。私達は厚樫へのコースを暫くおいて林道を北に進み、途中山の気分を満喫し乍ら手にわらび、うるい、蕗等を採り乍ら二つ石の古戦場に向う。三角点のある内谷の最高峰から南に行くと間もなく路傍に石を二つに割った様な、所謂二つ石を見る。兵士の炊事をしたとすれば随分大きい釜を掛けたと想像され、石の間からは炭屑も出た。壕はこの台地の南側と西側に百五十米位掘ってあり、この上の台地には砲塁の跡もあるという。色々と沢に至り厚樫への間道を東へ進む、六百年前の状態そのままでよくもこの山上に平平に至りてんでの穫物を比べ乍ら昼食にする。今日の足跡をふり返り、先づ鳥取越えの案内標木を立てることと、広くこの間道を天下に紹介する事等を申合わせた。かくして私共の探究の夢は益々広がって行く。是非郷里の歴史や建築、風物等文化財を纏めて見たいとは参加者一同の念願でもあった。

（野村隆一記）

×　×　×

次回は七月六日（水）
コース　貝田—光明寺
車庫発八時三七分
集合場所　貝田松浦商店前

違反を憎み正を育てる心

明るく正しい選挙というものを長いこと待っているのだけれど、いつになったらその日が来るのか、私にはまだそのかげすら感じることができない。

「弱きを助け強きを挫く」これは正義を愛し不正を憎む日本人の気質を表明した言葉と思っていたのだけれど、不正選挙に対して憎むことを知らない日本人にとって、案外内容の薄い、見せかけだけのものであったのかも知れない。

日本人は選挙違反を憎むことを知らない。逆に、それが政治家というものの常であり、それでこそ一人前の手腕を備えた信頼のおける政治家と思う者があったりさえする。だから選挙違反の裁定がくだっても、門をとざして謹慎するものもないし、刑が終われば大手を振って活歩し、自ら恥じることも知らない。こんなことを大衆が許容しておくからこそ、選挙が暗い方へと落ちこんでいく。せめてコソ泥に向けられる冷たい目を、これらの違反者に向けるくらいの識見と勇気とを、主権者としての国民が抱くのでなければ、選挙を正しい軌道に戻すことはできない。

これだけではない。さらに恐れねばならないことは無理が通れば道理ひっこむで、不正のはびこるところには、正がそだたないということである。高潔有能の士が日本の政界に育たないとすれば、日本の前途にとって、国運の浮沈に関する重大事である。国民あげて不正を憎み、正を育てる心を養うことは、日本の政治にとっての現下の急務であろう。

「私たちの広場より」

犬の放し飼いはできません

県条例七月一日から

犬は、昔から動物の中では最も人に親しまれてきています。愛がん用に、そして番犬としてもよく飼われてきていますが、犬は本来野性の動物ですから、野性の本能をいつ、どんなときに出すかわかりません。ですから、犬を放し飼いにしておくと本来の野性に戻り、野良犬の仲間入りをしてゴミ溜をあさったり、庭や畑を荒したり、また人や家畜にかみついたりします。また恐ろしい狂犬病のもとになる病毒をまきちらすことにもなりますので、犬を飼っている人は、社会的な責任をいつでも自覚して、他人に迷惑をかけないようにしなければなりません。

犬による被害は、人や家畜農作物にいたるまで、年々増加しており、大きな社会問題の一つになっています。とくに幼稚園の園児、小学校の児童、新聞、郵便、牛乳配達人などが被害を受けることが多く、これらの被害のほとんどが、犬の放し飼いによるものです。昨年一年間に犬にかまれて保健所に届け出た人は二三人ですが、これ以外にも被害を受けながら届け出なかった人がかなりあるものと思われます。

そこで県では、犬による被害を防ぐために「飼犬取締条例」を改正し七月一日から実施することになりました。

この条例は、人家の密集している町や人の多く集まるところで犬の被害の多いところでは、必ず犬をつないでおかなければならないよう定められています。

もしもこれをおこたって◆犬を放し飼いにすると、捕獲されたり、処罰を受けることになります。可愛いわが家のマスコットとして犬を飼うお宅では、必ず犬をつないでおきましょう。

犬をつなぐときは、人や家畜にかみついたりしないような安全な方法、また安全な場所につなぎましょう。そして犬はつなぎ放しにしておくと狂暴になったりしますので、ときどき引き運動をさせてつねにかわいがり、家族の一員として、愛情をもって飼うことが大切です。

また、犬を飼っている方は飼主の責任として、次のことを必ず守ってください。

○飼犬が道路、公園、そのほか人が多数集まる場所や他人の所有地内をふんなどで汚したり荒したりしないようにすること。

○犬小屋の内外は、いつでもきれいにして、ハエやカが発生しないようにすること。

○門柱、その他、他人のみやすい箇所に、犬を飼っていることを表示する標識をはっておくこと。

○飼犬が人をかんだときは、すぐ保健所にとどけ、その犬について獣医師の検診を受けること。

○狂犬病予防法により、年一回（春、秋）の登録と、年二回の予防注射を受けること。

また、一般のみなさんは、お産前後の犬や、知らない犬にいたずらしたり、不用意に近づかないようにし、もし犬にかまれたときは、医師の診察を受けるとともに、すぐ保健所にとどけてください。

（保健係）

モー君の別荘入り

国見町では去る昭和三十八年に、北山組合から宮城県の馬頭山一帯約五十ヘクタールの山林を借りうけて放牧場を開設し、毎年二十余頭の牛が放牧され、秋には骨格たくましく、まるまると太ってわが家に帰るというので、みんなからたいへん喜ばれている。

ことしも放牧希望者が殺到し去る八日、飼主に付添われたモー君、モーちゃんたち、うれしそうに山の別荘入りをした。これから半年間、新鮮な青草を腹いっぱい食べながら山野を存分にかけめぐり、町づくりに貢献することであろう。

新着図書紹介…(1)

書名	編著者
山本五十六	阿川弘之
50の感話とその生かし方	永崎一則
名文	井上弘
愛欲の瀬降	三角寛
土は生きている	阿部良之助
ボタンとハンカチ	源氏鶏太
才二の結婚	林芙美子
私の行き方考え方	松下幸之助
北の河	高井有一
正倉院随想	李家正文
古銭その鑑賞と収集	瀬戸浩平
生きている名作のひとびと	読売新聞社
酒落た関係	石川達三
一万三千人の容疑者	堀隆次
知覧	高木俊朗
海峡	井上靖
誘拐	高木彬光
それでも女房がコワイ	楠本憲吉
飛驒忍法帖	山田風太郎
お茶の間科学事典	朝日新聞社
対話　人間の建設	岡潔・小林秀雄
ささやかな日本発掘	青柳瑞穂
氷点	三浦綾子
意気に感ず	源氏鶏太
沈黙	遠藤周作
囮おとり	梶山秀之
日本の姿勢	笠信太郎
モンローのような女	舟橋聖一
亭主の家出	中村武志
女の顔	源氏鶏太
剣と旗と城	柴田錬三郎
愚者の夢	武者小路実篤
逃亡（上）	松本清張
仝　（下）	仝
ある落日	井上靖
がしんたれ	菊田一夫
悪名（前編）	今東光
仝　（後編）	仝
紀ノ川	有吉佐和子
日本剣士伝	南条範夫
欲と欲と欲	仝
監察夜話	伊東四郎
鎌倉史都散歩	朝日新聞社
京都再見	京都新聞社
定本次郎物語	下村湖人
文章構成法	森岡健二
どくとるマンボウ途中下車	北杜夫
外道忍法帖	山田風太郎
野ざらし忍法帖	仝
奇跡の武将	柴田錬三郎
草の陰刻	松本清張
遭難	仝